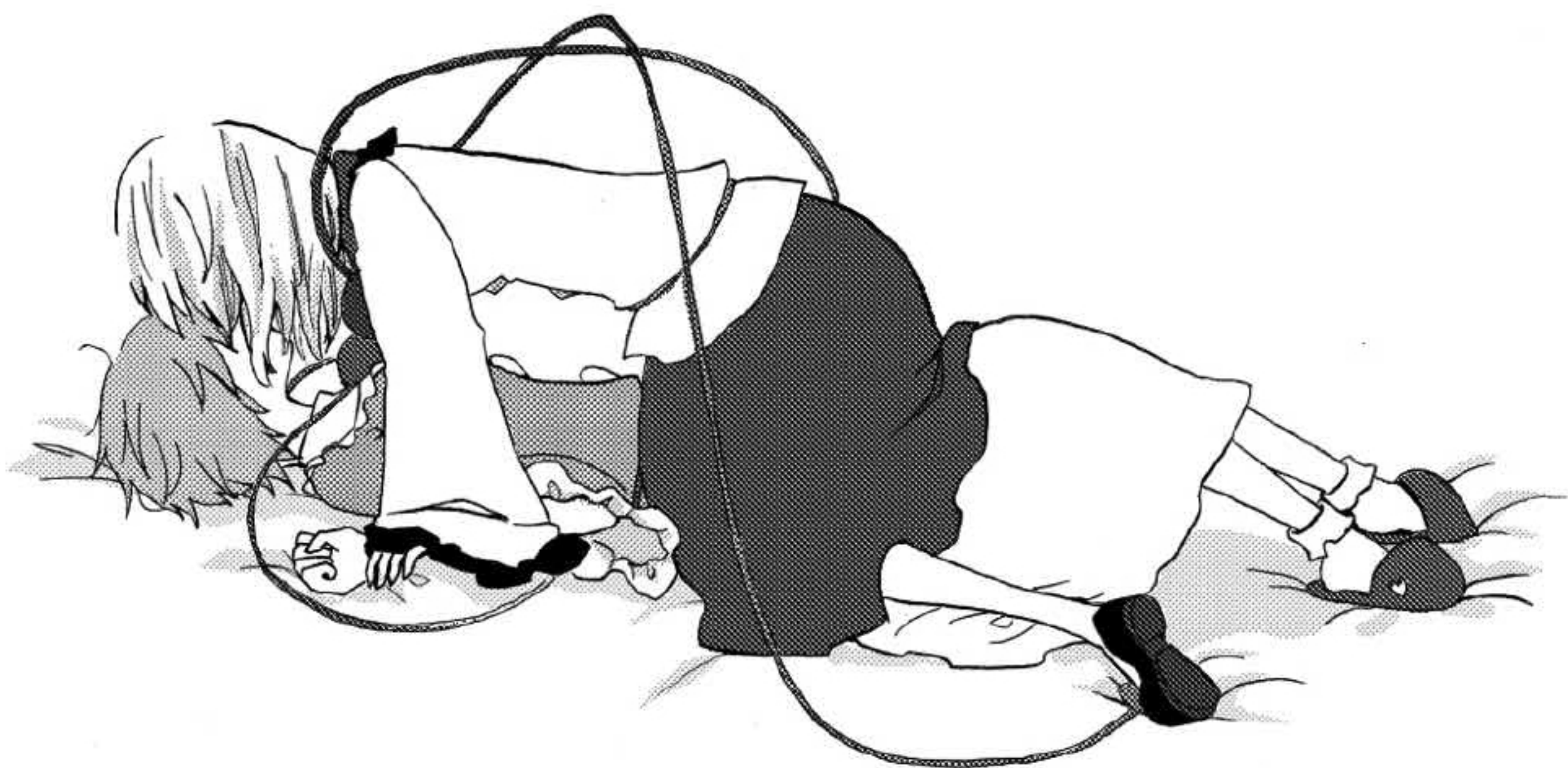




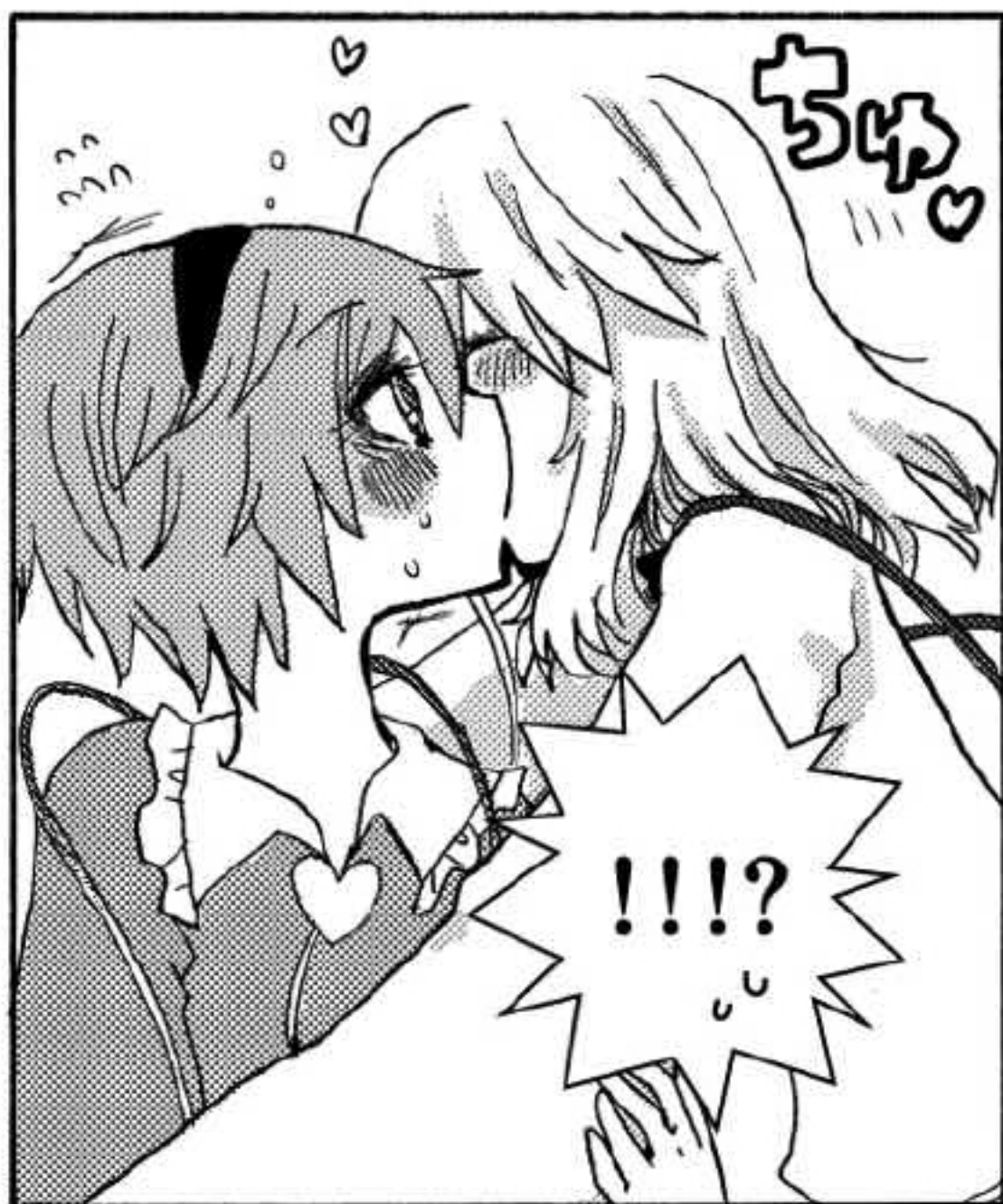
Over.
the story of unclenched hearts



どうしてこうなった？







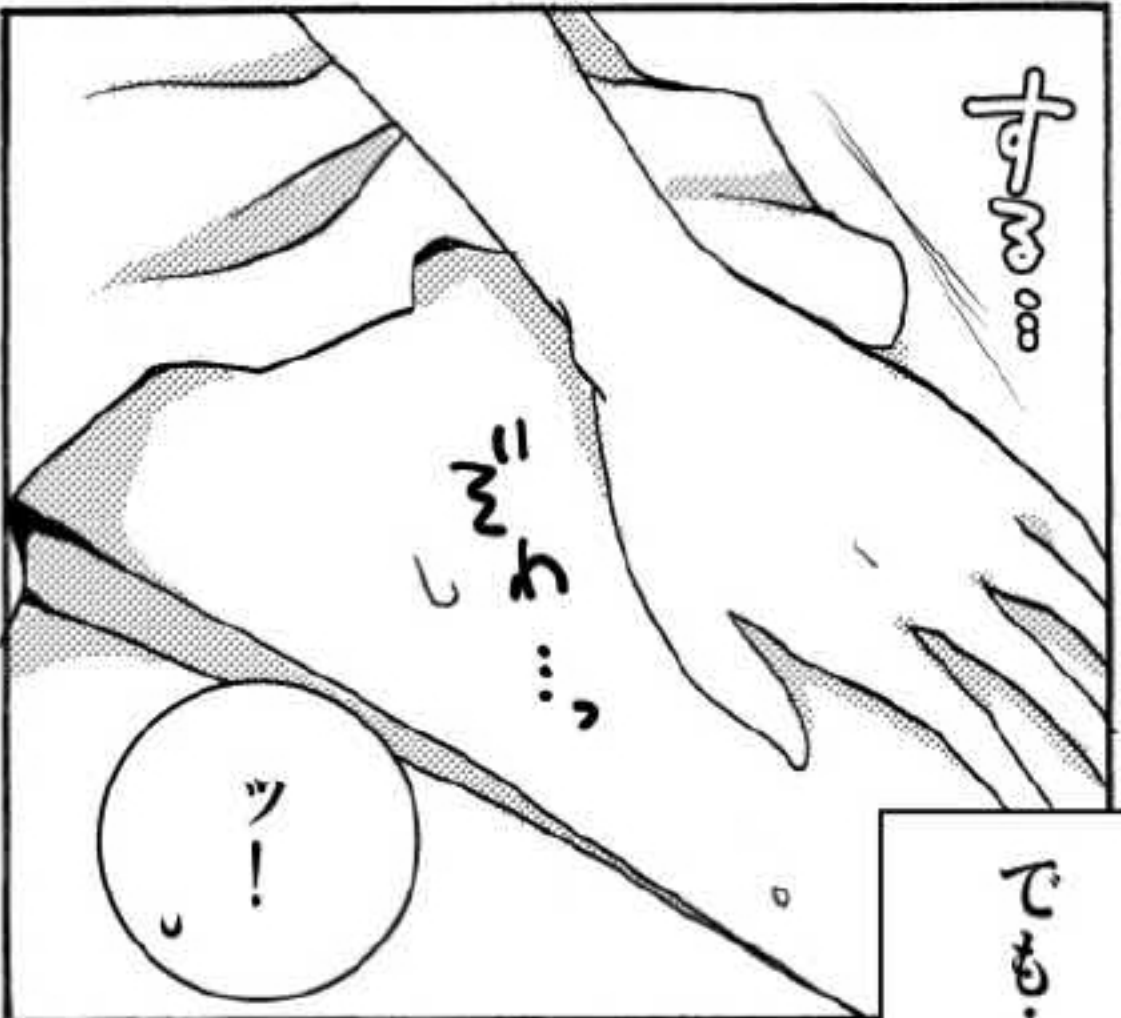
眼は未だに閉じたままだけど、
明らかに前と違う。

はぁっ……

ふらふらと来ては、
行為に及ぶようになった。



最初は、戸惑いと「読めない」恐怖から抵抗があった



んんッ……



読めない方が気持ちいい……

その悦楽を
知ったが最後、

私の心に
咎めるものは
何もなくなつた





あ



あ...そうだ...、
昨晚こいしが来て...



こいしは...、
もう行ってしまったのね...



『眼』が閉じたままということは
恋心も眠ったままのはず…。
だから……



こいしの行動に深い意味はない。
本能の中にある性的衝動を
ぶつけているだけ。



あ、

おはようございます。

さとり様が
お寝坊なんて
めずらしい。



じゃあ、好きな人がいるとして

その人が自分をどう思っているのか知りたいたいと思ったとき、お隣はどうするの？



潜在意識にお空がいることは触れないでおこう...

うーん.....



無理しなくていいから!!

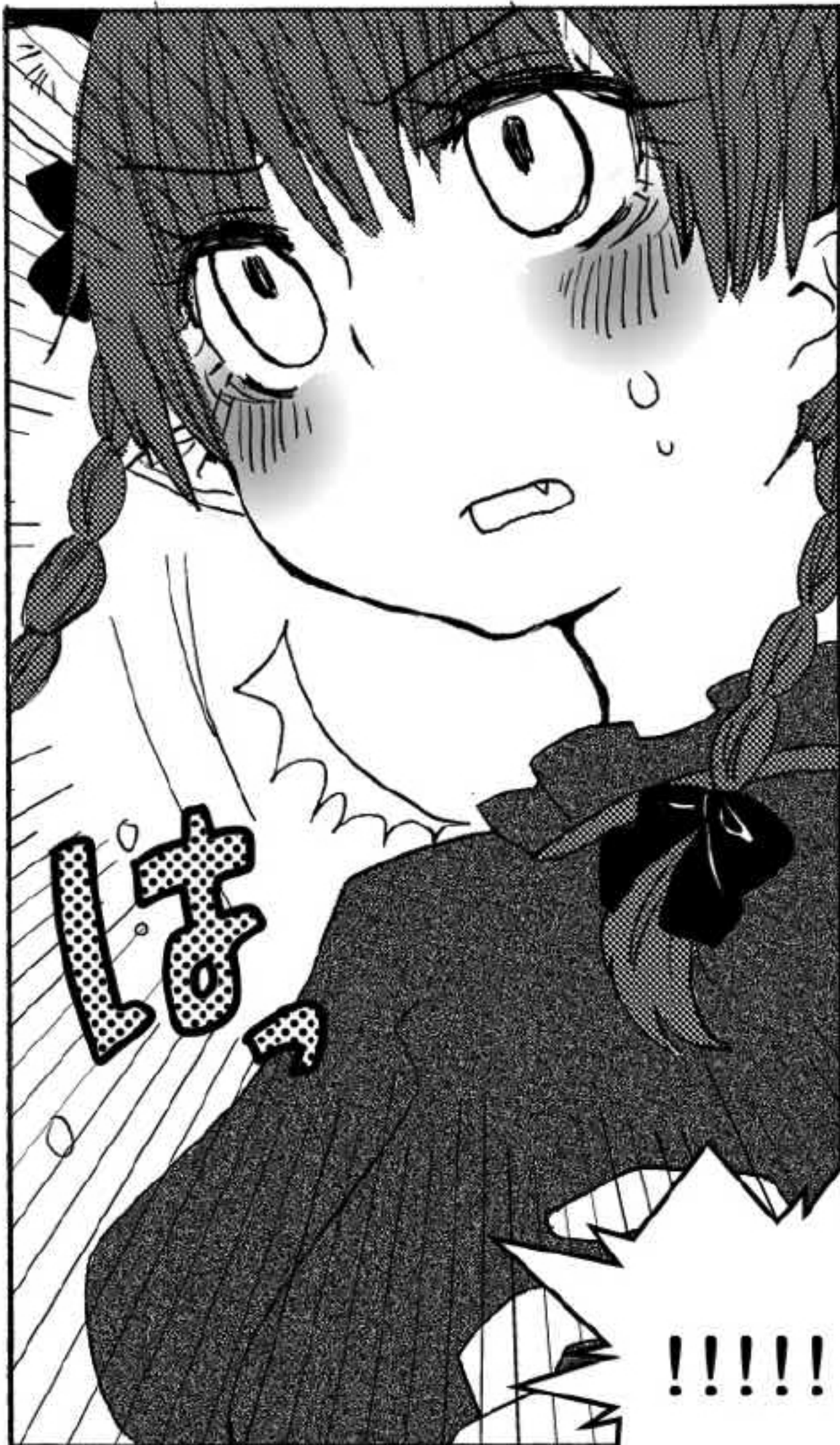


...自分を...どう思ってるか.....



ごめんなさい、いきなり変なこと聞いて

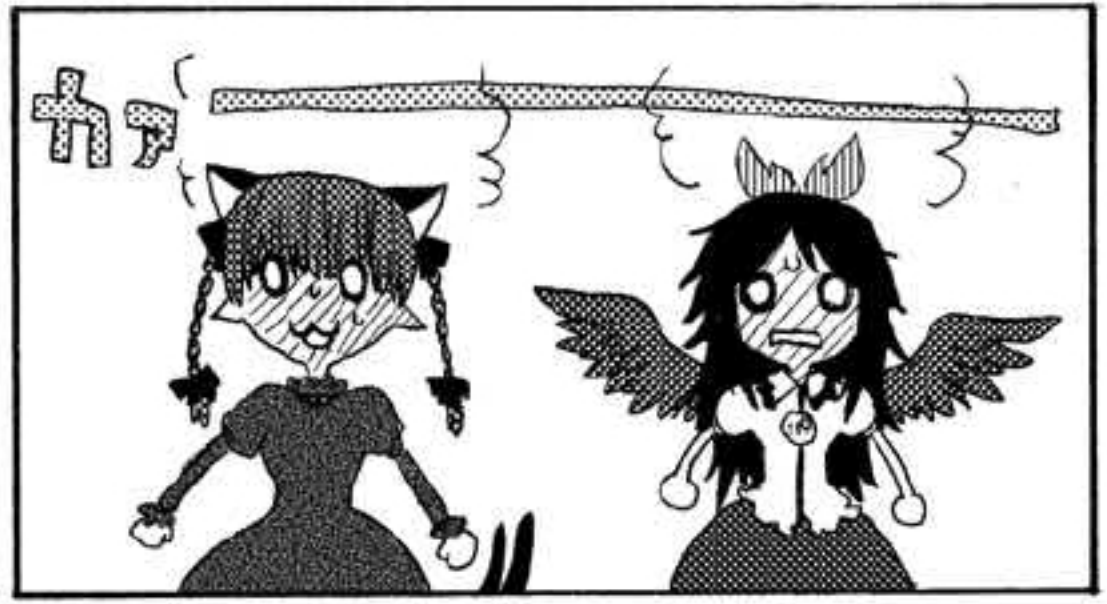
少し気になっただけだから。













地底に来る前…

こいしが『眼』を閉ざす前のことを
思い出してしまふ……



言葉もいらず
心が通じ合って、

ふたりだけの世界で
生きていたあの頃



どんなに周囲に
忌み嫌われても
ふたりでいれば
大丈夫だった

そうやって
ずっと生きてきた

そう思っていたはずなのに……



いつからだったか

こいしの心が
翳^{かげ}りを帯び始めた



もともと傷つきやすかったこいしは
『眼』の力が苦痛で仕方なかった



でも私は
そのこいしの苦痛から
眼を逸らしたの



「ふたりでいれば大丈夫」
そう信じることに
縋っていたから

こいしは次第に
私を避け、読ませなくなった

そして



ある日…

こいしは
『眼』を閉ざしてしまった

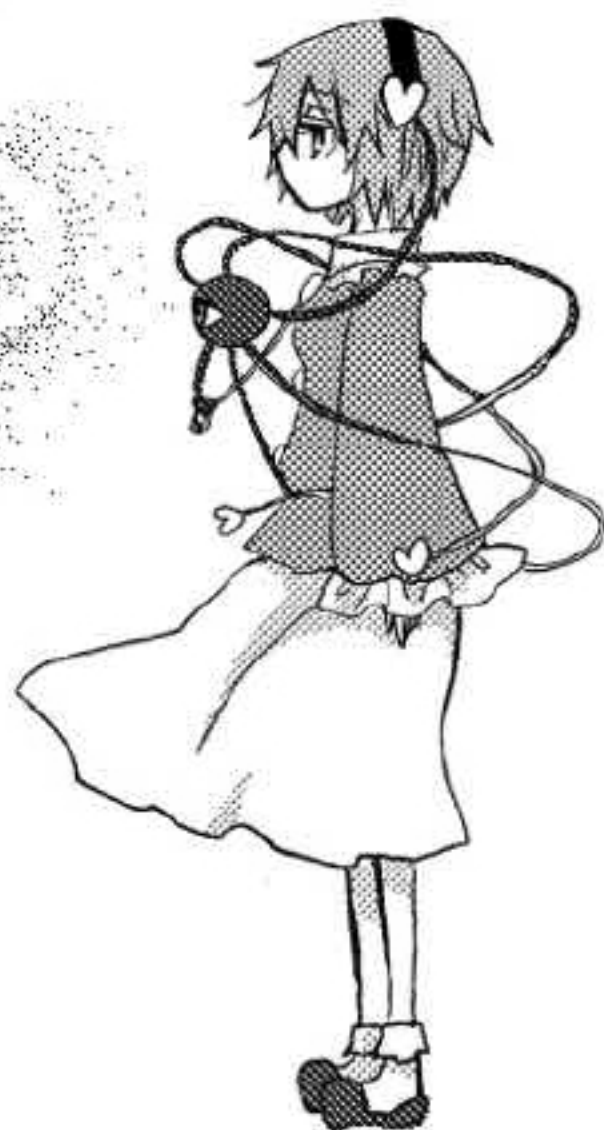


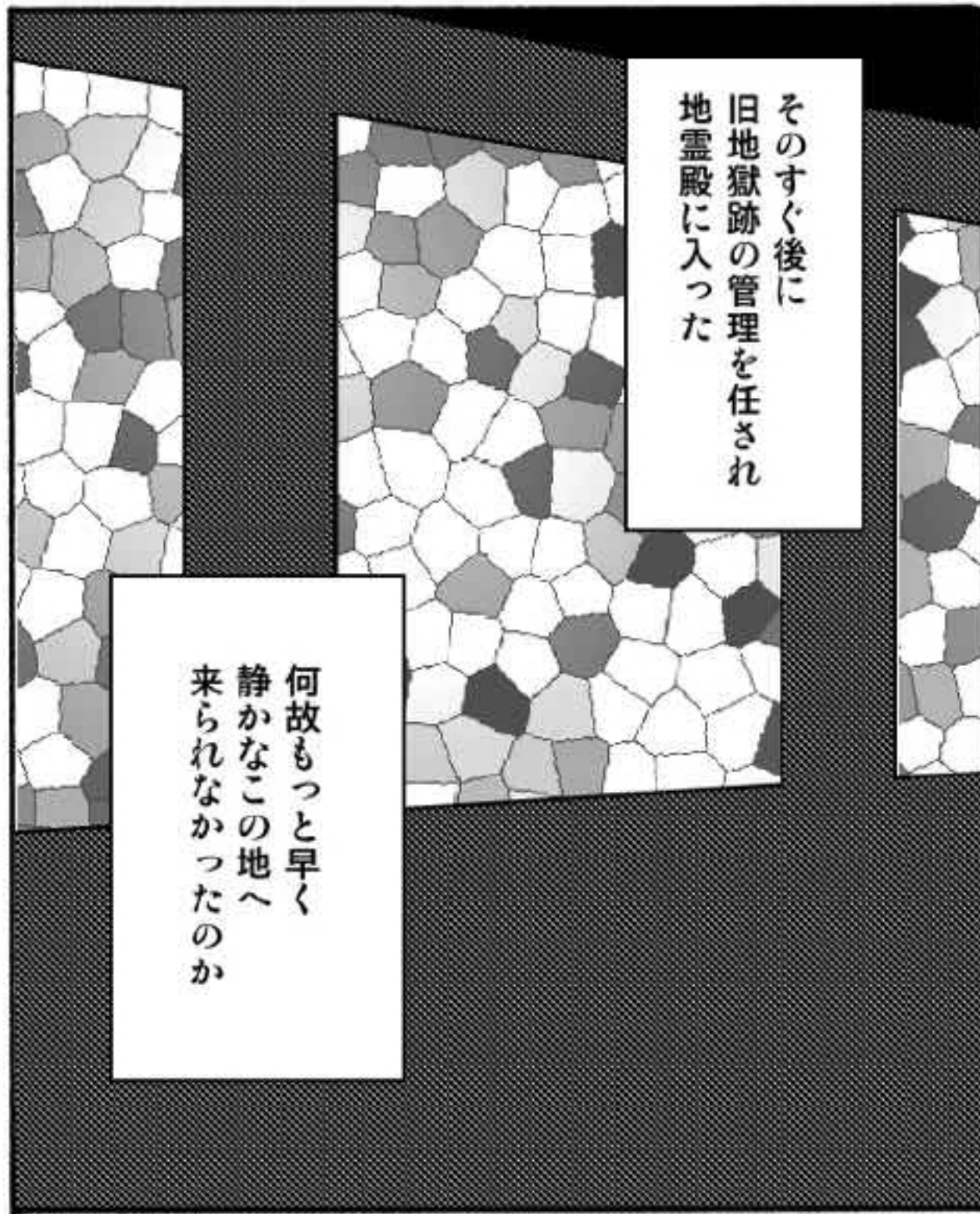
きつかけや詳しい理由も
わからぬまま



想い合っていたときの恋心も
無意識の底に沈んだ

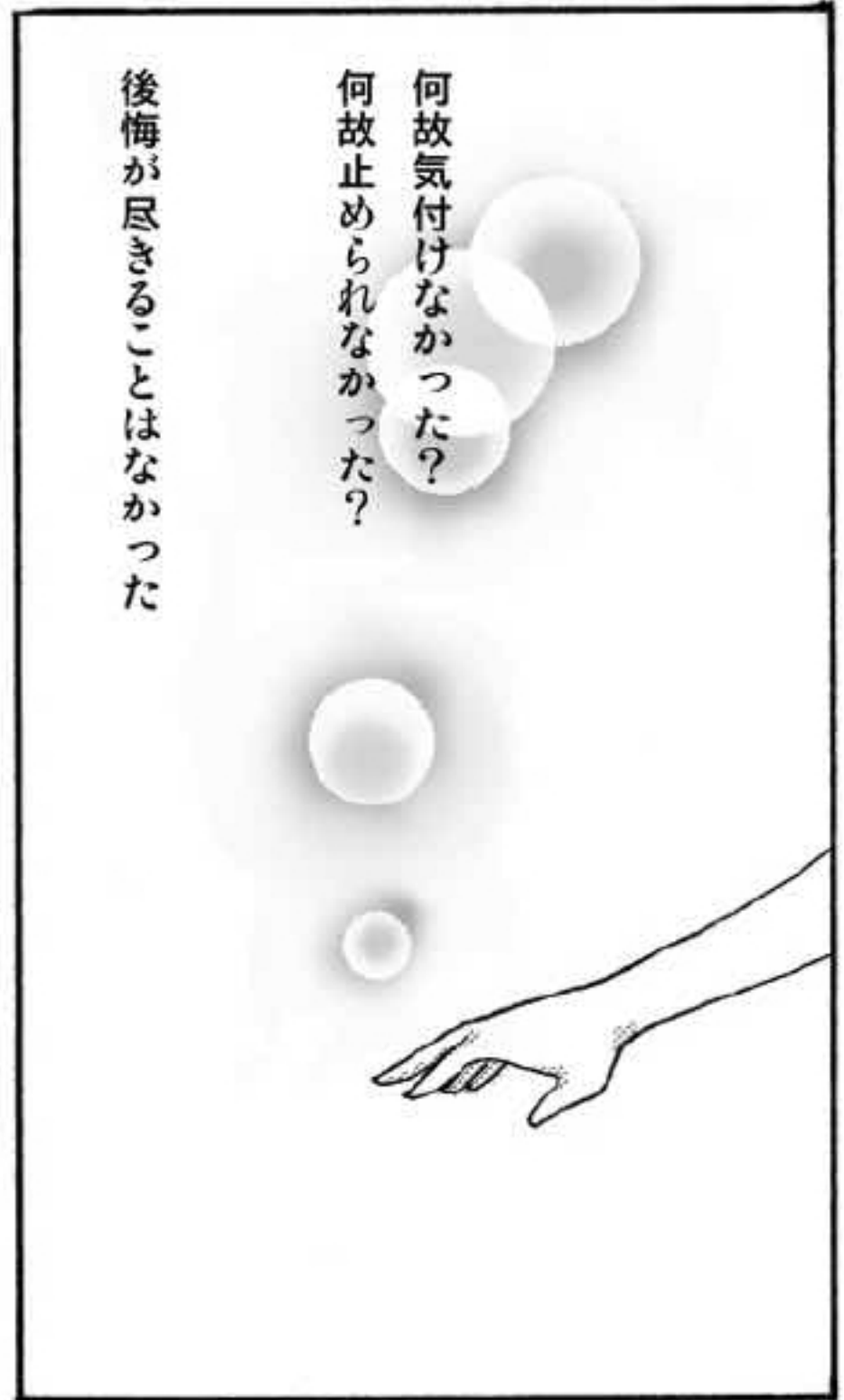
「ふたりの世界」は
終幕を迎えた





そのすぐ後に
旧地獄跡の管理を任せられ
地霊殿に入った

何故もつと早く
静かなこの地へ
来られなかったのか



何故気付けなかった？
何故止められなかった？

後悔が尽きることはなかった



でも どれももう
仕方のないことなのだ

私もこいしも「弱かった」だけ

そう思えば 少しは楽になれた





お姉ちゃんは
いつも傍にいてくれたけど、
私はやっぱり耐えられなかった



どうして能力のせいで
嫌われなければいけないの!?
知りたくもないことを知って
辛いのも痛いのもこっちよ!



こんな能力
いららない……!

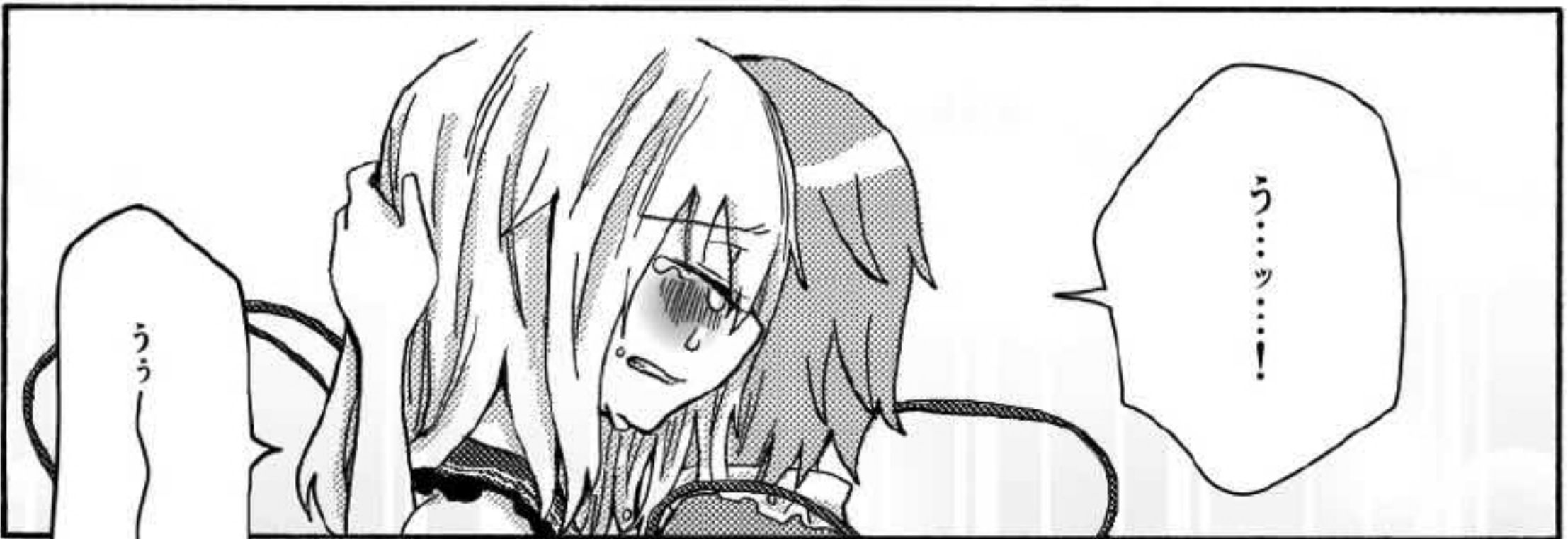
いつまでもこんなに
弱いままの私なんか、
いつかお姉ちゃんも見放すわ

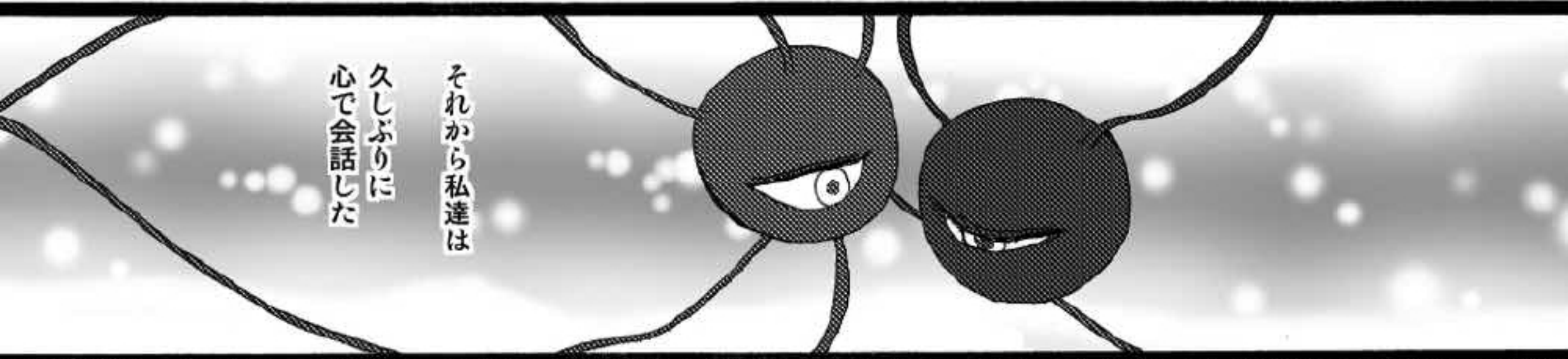
だったら……



そろそろ前……







それから私達は
久しぶりに
心で会話した



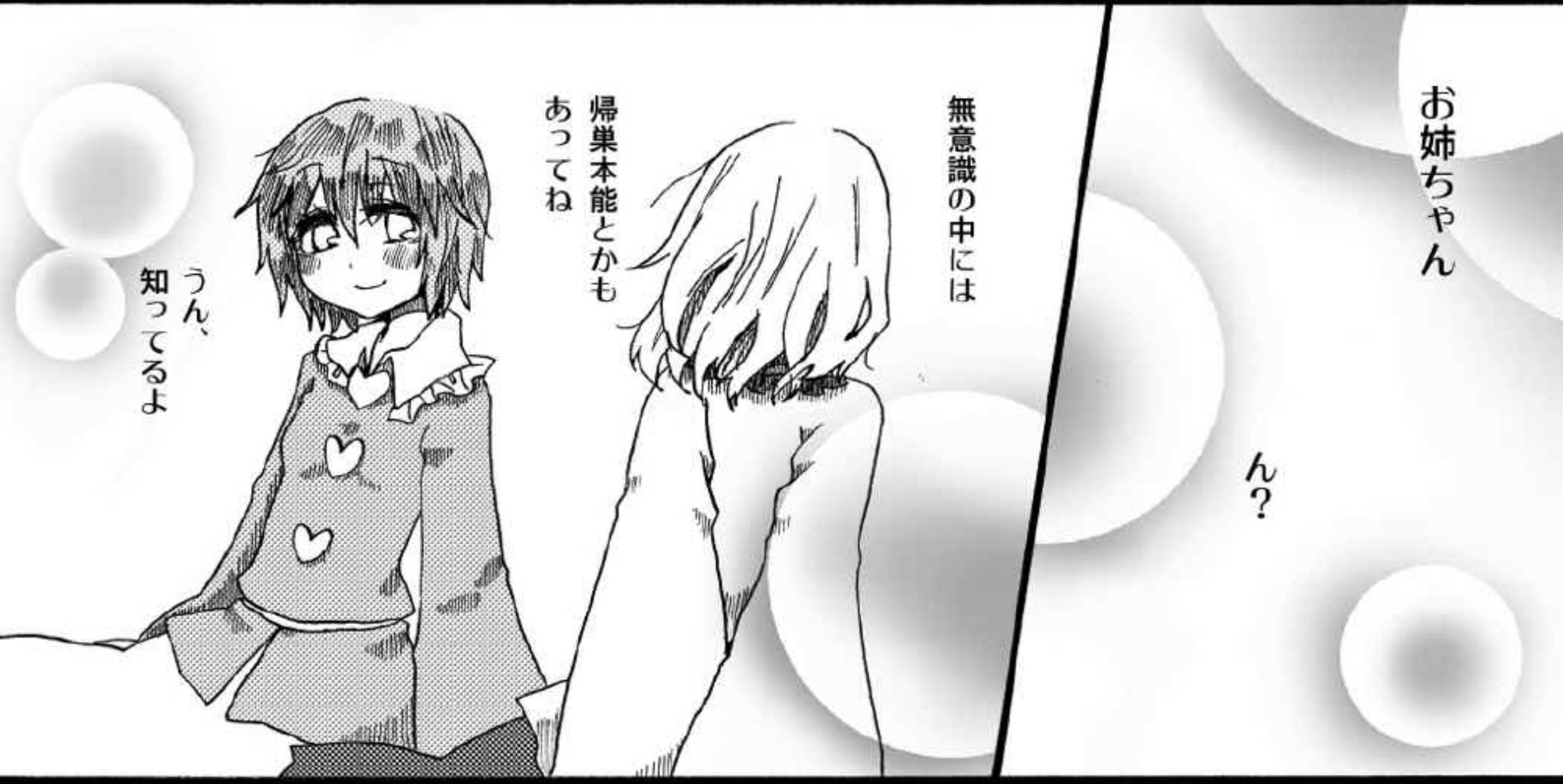
私とエッチするの
嫌だった？

違うの...
ただ、性衝動を
ぶつけられるだけの
相手は嫌だなんて、
不安で...

...へえー、
「読めない」方が
気持ち良いって？

ニャニャ

ニャニャ
ニャニャ!!
////



お姉ちゃん

ん？

無意識の中には

帰巢本能とかも
あつてね

うん、
知ってるよ

お姉ちゃんが
地霊殿じりょうでんにいるから



ここが帰る場所だって
わかってるから、

私はふらふらできるの

んふふ……

あとね、あとね！

うん？



『眼』を閉じてても、
お姉ちゃんを好きな気持ちは
ちゃんとここにあるから

表に表れないって
だけで……

無意識にだって
好意や嫌悪もあるし、
えーと、だからね……

大丈夫よ、こいし……
ありがとう……



こいし：
大好きよ

うんっ
私も！
お姉ちゃん

大好き。

これまで、ずっと
心のどこかで

こいしの『眼』が
再び開くことだけを
望んでいたけど

すべてがわかった今は、
これでいいんだと思える







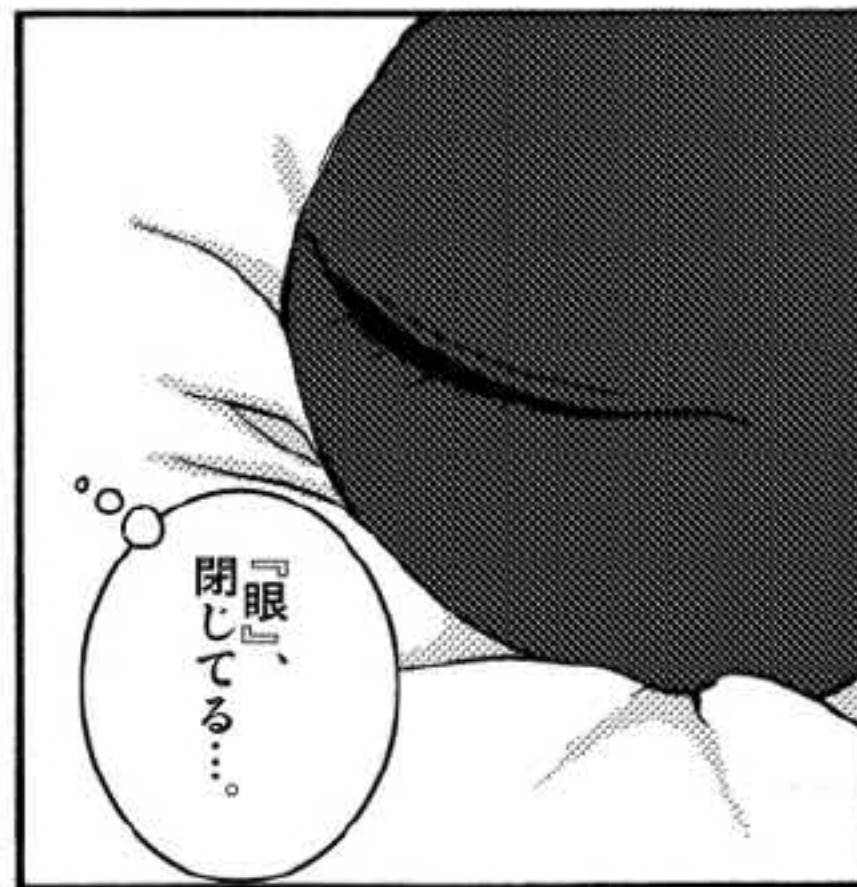
うん...



...act
!

あのまま
眠ってしまった
のね...
うん





「ふたりの世界」は
壊れてしまったけど、

別々になった
「ふたつの世界」が
繋がった。

こっちの方が
ずっと素敵ね、
こいし。

ふしまい

後日

おなまはたのり
おなまはたのり...
おなまはたのり



キクキク



はたはた

ムキムキ

